

第1回活力・魅力部会（平成21年8月27日）

発言番号	意見の内容	指針素案での取り扱い	該当箇所
（議題1 活力・魅力部会審議資料のうち、資料4主な取り組みにかかる委員意見等）			
1	・ グローバルに対し、ローカルエコノミーという言葉が対にして出しているが、対になる地域経済を象徴する言葉が欲しい。	第2部の2第1章で、「グローバル化による地域経済への影響に過度に左右されず、安心できる暮らしを守るため、暮らしを支える地域の産業を活性化し、働く場を確保することが重要になっている」認識のもと、「暮らしを支える産業を振興する」旨を位置づけている。	p. 30 上段
2	・ 横文字が多い。ローカルエコノミーより地域経済の方が市民は分かりやすい。また、「ローカルエコノミーを守る」ではなく「つくる」とした方がよい。	・ 第2部の2第1章を「暮らしを支える産業を振興する」とし、地域経済を振興する旨を位置づけている。	p. 30 上段
3	・ 神戸は外国人好みの地形で自然が豊かなまちである。欧米人が憧れるギリシャ・ソレントのような雰囲気があり、強みとして活用すべき。しかし、三宮の街には統一感がない。	・ 第4部第2章で、「デザイン都市・神戸」にふさわしい美しさと魅力を備えた町にするため、山や海に恵まれた自然環境や異国情緒あふれるまちなみなど多彩で特色あるまちを守り、育て、創り出す」旨を位置づけている。 ・ また、第3部第3章では、「豊かな自然と美しい都市景観をもち、開港以来の歴史などに根ざした生活文化を大切にする」旨や、第2部の2第3章では、「外国人を含め誰もが暮らしやすい優れた住環境を活用した企業誘致を推進すること」を位置づけている。	p. 52 中段 p. 44 中段 p. 35 中段
4	・ 魅力があると感じる都市には、人材が集積しやすく、産業が根付きやすいという議論がある。	・ 第1部の世界の動きのなかでも、「経済・地勢でつながった複数の都市群（メガ・リージョン）が存在感を高めている」認識に立っている。 ・ その上で、第2部の2第3章では、「都心や産業用地を直結した海・空・陸の交通網による利便性や外国人も含め誰もが暮らしやすい優れた住環境を活用した企業誘致を進めること」を位置づけている。 ・ また、関西諸都市と連携しながら、神戸の特色を伸ばす観点で、第3部第4章では、「医療産業都市構想」「次世代スーパーコンピュータの利活用」などにより、「世界的なバイオメディカルクラスターとして知の集積をめざす」旨を位置づけている。	p. 9 下段 p. 35 下段 p. 46 中段
5	・ 資料にはSWOT分析のうち弱みが記載されていない。	・ 第1部及び、第2部以降の各章の「現状と課題」につき記載を充実している。	全体
6	・ 強みの中に、減災に対し意識が強い都市もあると思う。減災都市を産業に結びつけるということまでではないが、災害への備えや思いやりのあるまちという点は都市の魅力となりえる。	・ 第1部の「神戸づくりの指針の視点」において、「震災の貴重な経験は、今後の神戸のまちづくりにおいてだけでなく、世界の人々の「安全・安心」のためにも継承していかなければならない」認識に立っている。 ・ その上で、第4部第1章で「まちの安全を確保する」旨を位置づけているほか、第3部第4章で「震災を経験して得た教訓を活かした防災分野などで国際協力をしていく」ことを位置づけている。	p. 17 上段 p. P50～51 p. 47 中段
7	・ 関西経済連合会の会議で、ブランドは地域の価値観で形成されるという議論があった。ブランドは、産業・魅力を高めるソフトのインフラである。	・ 第1部の「神戸づくりの指針の視点」で神戸の持つ資源や魅力を活かし、「神戸のまちを愛し住み続けたいと考える市民の気持ちをさらに高め、将来にわたって魅力と活力を生み出していくために「デザインを活かした神戸づくり」を進める旨を位置づけている。 ・ 例えば、第2部の2第2章では、「優れたデザインに共感・共鳴できる市民の風土づくり」などにより付加価値を生み出すことを位置づけている。	p. 18 中段 p. 33 上段

8	<ul style="list-style-type: none"> 外国人からの多様な人材の集積、外国籍の人々の動きも踏まえての展望を考えて実施すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 第7部第1章で「世界の中での神戸を確立する」ため「多様な人財により神戸の力を高める」旨を位置づけている。 特に、「グローバル社会に対応した新たな都市戦略」として、「人種などあらゆる多様性を尊重し、多様な個が存分に生きるまちづくりをする」旨を位置づけている。 	<p>p. 78～81</p> <p>p. 78 下段</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> 国際都市・医療産業都市、デザイン都市、田園都市など全部の意味を集約し、「世界とふれあう市民創造都市」のようなコンセプトが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1部に「デザイン都市・神戸」の取り組みを推進することで「市民一人ひとりが能力を発揮する」ことや「人と人とのつながりを活かした地域が主体となる」「新たな価値を創造する」まちをめざす旨を位置づけている。 	<p>p. 18 下段</p>
(議題2 「神戸の魅力発信と集客観光の強化」にかかる委員意見等)			
10	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した観光情報の発信が、神戸は弱い。例えば、沖縄、静岡、北海道は、中国や韓国の人気サイトにヒットするように、非常に気を使っている。観光客の情報検索、予約を入れるのもインターネット経由。神戸に来訪する人の気持ちになって情報発信(HPを作成)をすべきである。神戸空港開設時にも提案したが、神戸観光のポータルサイトを空港のページなど良くヒットするページに設けてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第3章に、「150万市民の一人ひとりや観光特使など人的ネットワークの活用、また、技術進歩に対応したICTによる戦略的な情報発信に努めること」を位置づけている。 	<p>p. 35 中段</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> 新長田に製作中の鉄人28号、三国志の石造などは他都市から羨まれる観光資源である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第3章に「多彩で地域性のある食文化やユニークなまちおこしなど神戸のライフスタイルそのものを観光資源とすること」を位置づけている。 	<p>p. 35 上段</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ジャズ博物館をハーバーランドに作るという話もある。ラジオ関西には、ルイ・アームストロングの輸入版(国会図書館にもない)といったコンテンツもある。これも目に見える観光資源。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第3章に「多彩で地域性のある食文化やユニークなまちおこしなど神戸のライフスタイルそのものを観光資源とすること」を位置づけている。 	<p>p. 35 上段</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> 大型コンベンションセンターを集客の柱にしてはどうか。大規模な学会をしようとしても、横浜・京都しかない。京都は老朽化している。神戸に学会で来てもらい、新幹線で京都に行くとしても、近畿圏で潤う方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第3章で、「MICE、国際観光、広域連携により滞在型観光を推進すること」や、「広域観光ルートの強化、教育(修学)旅行の誘致、夜景観光や朝型観光の促進、アジア・瀬戸内クルーズの母港化や空港を活用した遠距離からの観光客誘致などにより、周遊と滞在につながる観光を促進すること」を位置づけている。 	<p>p. 34 下段</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> 学会を中心としたコンベンションや医療のメディカルツーリズムを集客の柱にし、記載のレベルを上げるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第3章では、「学会コンベンション誘致をはじめMICEやイベントの戦略的な誘致を推進すること」や、「医療産業や神戸空港を活用したメディカルツーリズム、等のニューツーリズム(新しい形態の観光)を推進すること」を位置づけている。 また、第3部第4章でも、「高度専門病院の集積を活用し、国内外からの患者を受け入れるメディカルツーリズムを進めること」を位置づけている。 	<p>p. 34 下段</p> <p>p. 35 中段</p> <p>p. 46 下段</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> 医療産業都市構想は、世界でも初めてに近い計画だが、研究分野が進捗し市内への波及はこれからになっている。ビジネスになる分野としてメディカルツーリズムがあるが、シンガポール、タイ、韓国に先を越されてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第4章で、「研究開発の成果を新事業の創出に速やかに結びつける仕組みや高度医療サービスを提供する機能を具体化することが今後のクラスターの発展に重要となっていること、また、メディカルツーリズムの推進のための環境整備が課題となっている」と認識している。 そのため、「高度専門病院と臨床医の集積」や「メディカルツーリズムの推進」を位置づけている。 	<p>p. 46 上段</p> <p>p. 46 下段</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> メディカルツーリズムでは、言語、風習、付き添いの手配、ビジネスジェットなど様々な要素が必要になる。中東の産油国を対象に話があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第4章で「高度専門病院の集積を活用し、国内外から患者を受け入れるメディカルツーリズムを進めること」を位置づけている。 	<p>p. 46 上段</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> 観光資源の受け皿が必要。長期体験型の観光に対応する受け皿やホームステイのシス 	<ul style="list-style-type: none"> 第7部第1章で、③人財が交わる仕組みをつくりますとして、「民・学・産と行政の各 	<p>p. 79 下段</p>

	テムを作っておくべき。	主体がそれぞれの立場で多様な人財と交流する場を創出するほか、行政は様々な分野において交流に関する情報提供などを行い、交流支援を行うこと」を位置づけている。	p. 80 上段
18	・ 知的レベルが高く、子どもが成人し、退職された人々が多く存在する。この人たちをホームステイの受け皿にしてはどうか。両方にメリットがある上、交流や観光にもつながる。	・ 第7部第1章で、③人財が交わる仕組みをつくりますとして、「民・学・産と行政の各主体がそれぞれの立場で多様な人財と交流する場を創出するほか、行政は様々な分野において交流に関する情報提供などを行い、交流支援を行うこと」を位置づけている。	p. 79 下段 p. 80 上段
19	・ 京都・大阪と観光でつながる奈良には資源があるが滞在はほとんどない。しかし、神戸なら滞在して京都・奈良に行ける。	・ 第2部の2第3章で、「広域観光ルートの強化、教育（修学）旅行の誘致、アジア・瀬戸内クルーズの母港化や空港を活用した遠距離からの観光客誘致などにより、周遊と滞在につながる観光を促進すること」を位置づけている。	p. 34 下段
20	・ 国の制度になるかもしれないが、オーストラリアのように若い人のワーキングホリデーのような仕組みがあれば、長期滞在がしやすくなる。	・ ワーキングホリデー制度は、日本と相手国の2国間の協定に基づく特別な査証が必要で、オーストラリアの他11カ国と締結されている。 ・ 市としては、第7部第1章で、③人財が交わる仕組みをつくりますとして、「民・学・産と行政の各主体がそれぞれの立場で多様な人財と交流する場を創出するほか、行政は様々な分野において交流に関する情報提供などを行い、交流支援を行う」ことを位置づけている。	p. 79 下段 p. 80 上段
21	・ 交流都市を目指すにあたり、本当にオンリーワンは何か、質的な整理が必要。	・ 第2部の2第3章で、「六甲山・摩耶山、有馬温泉、須磨・舞子など都心近郊にある自然や、開港の歴史に基づくみなとやまちの資源をデザインの視点で再構築し、オンリーワンの観光資源の魅力向上に取り組むこと」を位置づけている。	p. 35 上段
22	・ 医療産業はアドバンテージがあるが、コンベンションは弱くなっている。メリハリや優先度をつけ、絞っていかないと神戸市の計画とならない。	・ 第2部の2第3章で、「学会コンベンション誘致をはじめMICEやイベントの戦略的な誘致を推進すること」を位置づけている。	p. 34 下段
23	・ 神戸は、欧米人が非常に好む都市景観を持つ。例えば、オンリーワンの強みとして、瀬戸内クルーズの母港がある。これはオンリーワン。	・ 第2部の2第3章で、「アジア・瀬戸内クルーズの母港化や空港を活用した遠距離からの観光客誘致などにより、周遊と滞在につながる観光を促進すること」を位置づけている。	p. 34 下段
24	・ 外国人が関西を訪れる際の玄関にする。物流でハブアンドスポークの考えがあるが、観光交流にもハブの考え方を採用する。神戸で囲いこむ必要はない。神戸から瀬戸内を観光する。神戸から京都に行くということで良いのではないか。 また、クルーズは、造船業など産業の育成にもつながる。客船にも目を向けておくべき。	・ 第2部の2第3章で、「アジア・瀬戸内クルーズの母港化や空港を活用した遠距離からの観光客誘致などにより、周遊と滞在につながる観光を促進すること」を位置づけている。	p. 34 下段
25	・ 神戸からおこったルミナリエ、ジャズストリートは、神戸の下地があつてこそこのイベント。 他都市でやっても上手くいかなかった。でも、神戸はすぐにやめようとか縮小しようとしてしまう。継続して強化することが必要。	・ 第3部第3章で、「神戸の生活文化を市民一人ひとりが誇りとし大切にす」旨を位置づけた上で、「神戸のみならず、まちや自然を舞台にした様々な文化イベントをつなぎ、観光と連携した賑わいを創出すること」を位置づけている。	p. 44 上段 p. 45 上段
26	・ 地元の方が神戸の魅力を発信することが重要で、150万人も市民がいるのだから、小さな発信でもかなりのことができる。	・ 第2部の2第3章で、「150万市民の一人ひとりや観光特使など人的ネットワークの活用、また、技術進歩に対応したICTによる戦略的な情報発信に努める」ことを位置づけている。	p. 35 中段
27	・ 市は、市内、市民に対して情報発信が下手。市民のなかにも、個人で国際交流をしている人が多い。この人達の力を活用することで、国際交流も促進する。	・ 第2部の2第3章で、「150万市民の一人ひとりや観光特使など人的ネットワークの活用、また、技術進歩に対応したICTによる戦略的な情報発信に努める」ことを位置づけている。	p. 35 中段
28	・ 知の集積においては、まず青少年の教育を充実させ、最先端の技術を担う世代を育てていくことが必要になる。	・ 第3部第3章で、「先端医療研究に関する分かりやすい情報提供や、市民や事業者からの新たな資金協力の仕組づくりを行うこと」を位置づけている。	p. 46 下段

29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民がお金を掛けずに様々なことができることが喜ばれるのではないか。例えば、PI 2期の広場で、ピタゴラスの定理を使って木の高さをはかるとかも一案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3部第2章で、「生涯学習で学んだ成果を地域社会へ還元したり子どもたちの教育への支援等に活かすために、人材登録や新たな学校施設開放、民間団体や大学との連携などの仕組みづくりをすすめること」を位置づけている。 	p. 42 上段
30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 〈安・近・短〉は、すべての人が求めている基本で、花鳥園、科学館を含めた共通の入園券などの発行することの決断も必要。企業の施設の一般公開など次世代が科学に興味を持つような過し方を企画・提供してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3部第2章で、「民間事業者や大学などとの連携による多様なニーズに応じた学習機会の提供など市民の主体的な生涯学習活動への支援を進めること」を位置づけている。 	p. 42 上段
31	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済産業省・文部科学省が、全国の5箇所を、クラスターとして認定し、神戸と大阪がバイオメディカルクラスターに認定されている。学術を通じた交流にも注力すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3部第4章で、「基礎研究機能の強化のため、新たな研究機関・大学等の誘致及び既存研究機関のネットワークを強化すること」や、「関西全体でスーパークラスターを形成し、海外のバイオメディカルクラスターとの連携による世界的な研究機関、企業、研究者とのネットワークを構築すること」を位置づけている。 	p. 47 上段
32	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミシュランのガイドブックには、京都・奈良は3つ星で、大阪は2つ星、神戸は1つ星となっていた。京都の観光を審議する会議の議事録を見ると、外国人の誘致には、まちなみと温泉と水の3つの要素が重要であり、京都には古都のまちなみがあるが、温泉と水がない。どこかと組めばとあった。一方、神戸には「温泉」と「水」がある。有馬温泉は遠いという印象があるが、都心から30分で意外に近い。京都と組むこと、有馬温泉は近いということアピールし、外国人を引き込むべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2部の2第3章で、「有馬温泉や酒蔵などの「和のコンテンツ」を活用した外国人観光客の誘致、国民性・好みに応じた情報発信、多言語化による受入態勢の充実により国際観光を推進すること」や、「広域観光ルートの強化により周遊と滞在につながる観光を促進すること」を位置づけている。 	p. 34 下段
33	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人観光客のプラットフォームというか、受け皿が必要ではないか。欧米で良くある「i (イノベーション)」というマークの付いたものが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2部の2第3章で、「観光案内所の機能強化や観光ボランティアガイドとの連携など、着地型の観光や外国人観光客のニーズにも対応した観光案内機能を充実すること」を位置づけている。 	p. 35 中段
34	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンリーワンの観光資源、ICTの観光客の視点に立った活用、広域観光、市民との連携、他産業との連携や波及（新しい観光のありよう）などを審議していただければと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2部の2第3章で、「地域の自然や歴史・文化資源を活用したエコツーリズム、農村を活用したグリーンツーリズム、医療産業や神戸空港を活用したメディカルツーリズム、有馬温泉との連携によるヘルスツーリズム等のニューツーリズム（新しい形態の観光）を推進すること」を位置づけている。 	p. 35 上段
（議題3：「文化創生都市の推進によるまちづくりやにぎわいの創出」にかかる委員意見等）			
35	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化創生都市プランを作ったが、作成した当時は、観光産業を意識するより、震災によって劣後になりそうな神戸の文化をいかに維持していくかがまず念頭にあったが、作っていく過程で、市民の文化と文化を活かした都市戦略の両輪にしていった。この両輪の構造は、しっかりしていると思うので、次の計画にも活用できると思う。ただ、その後、更に、文化と観光や文化と産業の視点が盛り込まれるべきだと思うので、考えて欲しい。特に文化は観光の下支えになっているし、ストックだと思う。一方、観光も文化も不易流行で行うべきで、絶えず変化して新しいものを取り入れる部分と変化しないものを関連しながら実施していくべき。また、神戸の市民性を活かすべき。「3日たてば神戸っこ」とその特長を思うのだが、排他性が京都や大阪と比べてない。良い資質だと思うので、神戸の文化を考える上で取り込んで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3部第3章で、「文化を活かした神戸づくりの基本理念として神戸文化創生都市宣言を行った」ことを現状として位置づけ、めざす姿として、「市民は、地域や暮らしの中で、生活文化を大切にしつつ、世界の文化と交流し、多様な価値観や新しい文化を取り入れ、自発的に神戸の文化を創っていく」旨を位置づけている。 ・ これらを受け、「生活文化関連施設・産業等と連携した身近に文化を感じる空間を創出すること」や「観光と連携した賑わいを創出すること」を位置づけている。 	p. 44 上段 p. 44 中段 p. 45 上段
36	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化は、ソフトウェアやハードウェアの下にあるヒューマンウェアで成り立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3部第3章で、「市民が主体的に行う文化活動を支援すること」や、「文化芸術を担う 	p. 44 下段

		創造的な人材を育むこと」を位置づけている。	
37	・ 文化のあるべき姿については、抽象的すぎ、観光のあるべき姿との統一感がない。	・「めざす姿」や「ともに進める取り組み」の改訂を行い、記載レベルの統一感に留意した。	p. 43～44
38	・ A3のペーパーについては、文化だけ青文字がなく、4次計画からの違いがないように見える。文化創生都市に伴う取り組みも4次の計画から異なったところ。	・第3部第3章で、文化創生都市の趣旨を踏まえ、「神戸文化を継承し創造する」としている。 ・4次計画から充実した位置づけとして、「震災以降のNPO、ボランティア、大学等、文化芸術を支える新たな担い手の活動の活発化」を踏まえた「文化芸術を担う創造的な人材を育むこと」を位置づけている。 ・また、「文化芸術と観光をはじめとする産業との連携を図るなど、戦略的な取り組みを進めていく必要性」を踏まえ、「文化芸術をまちづくりに活かし、産業や賑わいを創出すること」を位置づけている。	p. 44 上段 p. 44 下段 p. 45 上段
39	・ 市街地の文化は意識されているが、西北神の広大な地域の文化について無視すべきではない。中世から保存・継承されているものがあるはず。お祭り、慣習を細かくリストアップし、どこでどういう行事をしているかデータがあれば活用できると思う。	・第3部第3章で、「市内各地に存在する有形無形の歴史的・文化的資源を活かし、文化に対する理解を促進し、まちや地域への愛着を育み、地域文化を振興すること」を位置づけている。	p. 44 下段
40	・ 文化の発信の源として、出版社が少ない。インターネットは確かに大きくなっているが、紙媒体の効果は依然として大きい。私も神戸の某出版社から出版していただいたが、全国版とは言いがたい。是非考えていただきたい。		
41	・ 高尚な文化も大切なのは分かる。また、B級グルメやサブカルチャーのような文化も大切にすべきだ。長田のそば飯、有名なヘアデザイナー、南女持ち（甲南女子大学から流行したショルダーバックの持ち方）など産業や生活に結びついた文化も重要。芸術だけでなく、子ども目線、大人目線、産業目線の文化もあってよい。	・第3部第3章で、「アニメーションや映画などメディア芸術に関し、地元資源を活かし、大学等との連携を図りながら、コンテンツなどをつくりだす新たなクリエイティブな人材を育成するとともに、産業としての振興すること」や「地域で育まれた文化を活用し、都市のブランドを高め発信すること」を位置づけている。	p. 45 中段 p. 45 下段
42	・ イギリスに学術研究に行った際、9時にバブの前で待ち合わせをしたが、子どもをベビーシッターに預け、ご夫妻で来られていた。スタイリッシュでかっこいい文化である。ある種の文化は社会インフラとセットでないと育たない。	・第3部第3章で、「市民は、地域や暮らしの中で、生活文化を大切にしつつ、世界の文化と交流し、多様な価値観や新しい文化を取り入れ、自発的に神戸の文化を創っていく」旨や「市民の多彩で主体的な文化芸術活動の活性化を図るとともに、鑑賞・体験や発表の機会を充実すること」を位置づけている。 ・また、第3部第2章で、「多様な保育ニーズに対応したサービスの充実を目指すこと」を位置づけている。（例：リフレッシュ保育）	p. 44 中段 p. 44 下段 p. 41 上段
43	・ 西宮は、芸術文化センターを市民で盛り立てているが、神戸の人は一杯ありすぎて、クール。源氏物語1000年祭りも、須磨・明石の舞台もあるのに、京都でのみ盛り上がっていた。開港140周年祭、ビエンナーレも、市民がクールで、もう少し盛り立ててくれればと思う。	・第3部第3章で、「豊かな自然と美しい都市の景観を持ち、開港以来の歴史などに根ざした神戸の生活文化を、市民一人ひとりが誇りとし大切にすることで、住みたくなる、住み続けたいまちをめざす」旨を位置づけている。 ・あわせて、「神戸のみならず、まちや自然を舞台にした様々な文化イベントをつなぎ、観光と連携した賑わいを創出すること」や「市内各地に存在する有形無形の歴史的・文化的資源を活かし、文化に対する理解を促進し、まちや地域への愛着を育み、地域文化を振興すること」を位置づけている。	p. 44 中段 p. 45 上段 p. 44 下段
44	・ 先程の神木先生のご意見に答えたい。昭和47年から55年に教育委員会が、神戸市内にある江戸時代からの民俗芸能を調査したことがある。高度成長期の調査であり、廃れたものがあるかもしれないが、稀有で基調な調査である。	・第3部第3章で、「市内各地に存在する有形無形の歴史的・文化的資源を活かす」ことを位置づけ、それにより「文化に対する理解を促進し、まちや地域への愛着を育み、地域文化を振興すること」を位置づけている。	p. 44 下段

45	<ul style="list-style-type: none"> 神戸市は、大阪市の面積の倍もある。様々な地域があり、文化もある。そのなかで、PRしなくても日本中が知っている5つの地名がある。文学と歴史の「須磨」、自然の「六甲山」、生一本の「灘」、最古泉の「有馬」、それと現在では県の名前にもなった「兵庫津」である。これだけ地名度があるということは、経済圏もあった訳で文化もある。開港以来のエキゾチックな文化だけでなく、これらも文化のインフラとして活かすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第3章で、「文学・歴史の薫り高い「須磨」、「兵庫津」、知名度の高い「最古泉『有馬』」、「灘の生一本」などにおいて歴史が培ってきた文化資源を活かしたまちづくりを行うこと」を位置づけている。 	p. 45 下段
46	<ul style="list-style-type: none"> 神戸には民俗文化が多国籍で多様なものがあり、南京町の関帝廟、長田のマダンについても、ご存知ない方も多い。忘れられているが、民俗に根付いたものは、観光にも活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第3章で、「市内各地に存在する有形無形の歴史的・文化的資源を活かし、文化に対する理解を促進し、まちや地域への愛着を育み、地域文化を振興すること」を位置づけている。 第2部の2第3章で、「多彩で地域性のある食文化やユニークなまちおこしなど神戸のライフスタイルそのものを観光資源とすることなど、神戸発の観光スタイル（着地型観光）を推進すること」を位置づけている 	p. 44 下段 p. 35 上段
47	<ul style="list-style-type: none"> 港と街や市民が遠い。シドニーなど港町に行くと、通勤に船を使う人がいる。神戸ではそうではない。通勤への船便はペイしないので成り立たないかもしれないが、市民が船を日常に使う風景があつてこそ、港と市民が近く、港町に住んでいる実感がわくのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 第7部第2章で、「史跡、櫛形突堤、倉庫群および歴史的建造物など、数多く残されている歴史的・文化的価値の高い地域資源の保存・活用」により、市民が港まちに住んでいる実感がわくよう「港の歴史を継承しつつ、山海の恵まれた自然環境とみなとまちが融合するまちをめざすこと」を位置づけている。 第7部第2章で、「港と水面を活かした海上交通などの導入に向けた調査検討を進めること」を位置づけている。 	p. 82 中段 p. 83 上段
48	<ul style="list-style-type: none"> 文化については、参画と協働というが、行政は何ができるか、プラットホームをつくるのか、場をつくるのか役割の議論も必要。最低限、ファシリテイトする役割をはたしていくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第3章では、「市、事業者、NPOの連携によりネットワークを高め、市民や芸術家などの創造的な活動を支え、神戸の文化を活かした都市ブランドの構築・発信に努める」旨を位置づけている。 	p. 44 中段
49	<ul style="list-style-type: none"> 経済同友会で、「神戸らしさ」と神戸の市民性について、提言をした。おしゃれで文化的、山と海とがある。神戸の文化やイメージが神戸観光の基にあるのなら、文化を高めることが観光などにつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第3章では、「豊かな自然と美しい都市の景観を持ち、開港以来の歴史などに根ざした神戸の生活文化を、市民一人ひとりが大切にする」旨や「神戸のみなと、まちや自然を舞台にした様々な文化イベントをつなぎ、観光と連携した賑わいを創出すること」を位置づけている。 また、第2部の2第3章では、「多彩で地域性のある食文化やユニークなまちおこしなど神戸のライフスタイルそのものを観光資源とすることなど、神戸発の観光スタイル（着地型観光）を推進すること」を位置づけている。 	p. 44 中段 p. 45 上段 p. 35 上段
50	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生活文化的なものを高めることが重要で、神戸では喫茶店がどこもおしゃれであるというような、ソフトのインフラに腐心していただいたら良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第3章では、「ギャラリーやカフェなど生活文化関連施設・産業等と連携した身近に文化を感じる空間を創出するとともに、美しい景観やまちなみ等の保存・活用などによる文化の薫り豊かなまちづくりを進めること」を位置づけている。 	p. 45 上段
51	<ul style="list-style-type: none"> オンリーワンの神戸をどのように作るかについて、デザインの視点を取り入れて欲しい。デザインで心をつかむようにして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第3章では、「六甲山・摩耶山、有馬温泉、須磨・舞子など都心近郊にある自然や、開港の歴史に基づくみなとやまちの資源をデザインの視点で再構築し、オンリーワンの観光資源の魅力向上に取り組むこと」を位置づけている。 また、第2部の2第2章で、「優れたデザインに共感・共鳴できる市民の風土づくり」や、第3部の3章で、「神戸が発祥の地となる文化資源や地域で育まれた文化を活用すること」或いは、「須磨・兵庫津・有馬・灘の生一本」など歴史が培ってきた文化資源を活かしたまちづくりを行うこと」により、「都市のブランド力を高め発信する」ことを位置づけている。 	p. 35 上段 p. 33 上段 p. 45 下段

52	<ul style="list-style-type: none"> また、三宮、新神戸、港など点としては質が高いが、つなぐ部分にデザインを取り入れてはどうか。例えば、スペイン出身のサンティアゴ・カラトラバの橋のデザインは非常に繊細で先端的である。デザインを可視的に見せることは効果があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第7部第2部で、デザイン都市を具現化する「市民が世界に誇れる都心・ウォーターフロント「港都 神戸」の創生を図る」旨を位置づけている。 つなぐ部分についても、「歩行者動線の整備や環境にやさしい公共交通機関の導入等による都心・ウォーターフロントの回遊性の向上」や「「デザイン都市・神戸」の拠点として活用する旧神戸生糸検査所周辺では、フラワーロードからつながるウォーターフロントへのゲート空間にふさわしいまちなみを形成すること」を位置づけている。 	<p>p. 82 中段</p> <p>p. 82 中下段</p>
53	<ul style="list-style-type: none"> 市民あってこそその文化や観光であると思った。受け入れる神戸の心の広さを踏まえた記述にして欲しい。また、洋風的なものだけでなく、須磨、有馬など日本的な歴史もあることを踏まえたものにしてはと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第3章では、「有馬温泉や酒蔵などの「和のコンテンツ」を活用した外国人観光客の誘致、国民性・好みに応じた情報発信、多言語化による受入態勢の充実により国際観光を推進すること」を位置づけている。 第3部第3章では、「豊かな自然と美しい都市の景観を持ち、開港以来の歴史などに根ざした神戸の生活文化を、市民一人ひとりが大切にする」旨や「地域や暮らしの中で、生活文化を大切にしつつ、世界の文化と交流し、多様な価値観や新しい文化を取り入れ、自発的に神戸の文化を創っていく」旨を位置づけている。 	<p>p. 34 下段</p> <p>p. 44 中段</p> <p>p. 44 中段</p>
54	<ul style="list-style-type: none"> 神戸の文化はライフスタイルそのものにリンクしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第3章では、「豊かな自然と美しい都市の景観を持ち、開港以来の歴史などに根ざした神戸の生活文化を、市民一人ひとりが大切にする」旨や「地域や暮らしの中で、生活文化を大切にしつつ、世界の文化と交流し、多様な価値観や新しい文化を取り入れ、自発的に神戸の文化を創っていく」旨を位置づけている。 これらを受け、「ギャラリーやカフェなど生活文化関連施設・産業等と連携した身近に文化を感じる空間を創出するとともに、美しい景観やまちなみ等の保存・活用などによる文化の薫り豊かなまちづくりを進めること」を位置づけている。 また、「地域で育まれた文化を活用し、都市のブランドを高め発信すること」も位置づけている。 	<p>p. 44 中段</p> <p>p. 44 中段</p> <p>p. 45 上段</p> <p>p. 45 下段</p>
55	<ul style="list-style-type: none"> また、文化における行政の役割は何であるか、議論の整理をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第3章では、市の役割として、「事業者、NPOの連携によりネットワークを高め、市民や芸術家などの創造的な活動を支え、神戸の文化を活かした都市ブランドの構築・発信に努める」旨を位置づけている。 	<p>p. 44 中段</p>

第2回活力・魅力部会（平成21年10月5日）

発言番号	意見の内容	指針素案での取り扱い	該当箇所
（議題1 活力・魅力部会審議資料のうち、資料3の2（1）地域産業の活性化に係る委員意見等）			
56	<p>・ 商業では、小売市場や商店街の空店舗が増えて、中央市場でさえ衰退しておりいい知恵が出ない。思い切って地域の市場の都市計画的手法による集約が必要でないか。また、大店の出店により小売が潰れ、大店も中央市場でなく大阪で買っているのが現状だろう。市内小売に品物が少なく消費者はスーパーに行くという悪循環になっている。例えば、卸や小売との相談が必要であるが、中央市場での市場まつりなどをみると集客力があることがわかる。西側再開発は誰かがコーディネーターとなってスーパーではない小売機能を持たせるといった思い切った方向性を打ち出せないか。</p>	<p>・ 第7部第2章で、「中央卸売市場西側跡地（第Ⅰ、Ⅱ期）などの跡地の活用においては、新たな地域の魅力・活力を創出すること」を位置づけている。</p> <p>・ 第2部の2第1章で、「地域資源を活かし、まちづくりと一体化した商店街・小売市場をつくとともに、個店の魅力を高めるための取り組みを進めること」、また、都市計画的手法として、「大規模商業施設の適切な立地や、歩いて暮らせるまちづくりを進め、市街地での商業の集積を維持・活用すること」を位置づけている。</p>	<p>p. 84 上段</p> <p>p. 30 下段</p> <p>p. 31 上段</p>
57	<p>・ 国では農業の国際競争力強化を進めており、都市近郊の北・西区では、集落農営など多様な担い手の育成、販路拡大による生産力向上と安定的な農産物の提供を進めている。農地法の改正で、農地の効率的利用促進が可能となり、高齢化などの問題はありますが、集落・農業者・関係団体・神戸市などと一体となった施策の推進が有効だと思う。</p>	<p>・ 第2部の2第1章で、「農業従事者の高齢化や不耕作地の増加に対応するため、後継者の育成をはじめ企業やNPOなど様々な担い手を育むこと」を位置づけている。</p>	<p>p. 30 下段</p>
58	<p>・ 北・西区の農家は6千あるが担い手が減っている。減反地で米粉などを作り、米粉パンを学校給食、ベーカリーなどで使うなど担い手、農業が増える施策が打ち出せたらいい。</p>	<p>・ 第2部の2第1章で、「新鮮で安心・安全な農水産物の供給と都市近郊の立地を活かした多様な販売経路を確立し、「地産地消」を進めること」を位置づけている。</p>	<p>p. 30 下段</p>
59	<p>・ 震災で持ちこたえた事業者であるにも関わらず、2001年から5年間で1～4人までの事業所数が廃業、倒産などにより2千5百減ったが、これは商店街に対する行政の不備である。商店街を集約するのも一つかもしれないが、高齢化に向けて、地域ごとに歴史ある商店街をどうやっていくのか考えていかないといけない。（“2千5百減”一事業所企業統計「民営事業所 全事業所 2001年と2006年の事業所数比較」、商店街含む市内全事業所の数値。）</p>	<p>・ 第2部の2第1章で、「事業所数などが大幅に減少している商店街・小売市場の活性化のため、地域資源を活かし、まちづくりと一体化した商店街・小売市場をつくとともに、個店の魅力を高めるための取り組みを進めること」を位置づけている。</p>	<p>p. 31 上段</p>
60	<p>・ 地産地消といわれて久しいが、新鮮な魚を市民に提供しようとしてもいきわたらない。過去は魚屋さんが各町商店街にあったが、今は量販店が主流で地元というより全国から安いものを集めて売っていて地産地消は置き去りにになっている。例えば、しらすなど加工して中央市場におろすと原価割れするので、直売所をつくったり六甲の恵み（直売所）などで売ってもらったりしている。震災後、花隈などの料亭もなくなり、高付加価値産品も量販店を通じた流通となり厳しい。加工場経営での雇用にも取り組んでやっているが市場ギャップがあり、通年を通じて採用できない。地産地消の核を市でなんとか担っていただければと思う。</p>	<p>・ 第2部の2第1章で、「新鮮で安心・安全な農水産物の供給と都市近郊の立地を活かした多様な販売経路を確立し、「地産地消」を進めること」を位置づけている。</p>	<p>p. 30 下段</p>
61	<p>・ 農業は、期待されている産業の一つとして多くの人々に認識されており、日本農学のレベルは非常に高く、安全で栄養価の高い生産物であり、高付加価値で輸出もしている状況である。極論であるが、日本の食料自給率が下がって食糧危機が来て初めて本当の意味で農業は立ち上がるのかも知れない。農業従事者が食べていける産業でなければならない。資料にある将来像に担い手や土地利用で神戸のリソースをどう利用して、神戸らしい農業を作っていくか、優先順位をどうつけてやっていくか。神戸の農業は、食、健康、医療、</p>	<p>・ 第2部の2第1章で、「産学連携や農商工連携、都市ブランドの活用などを通じ、健康、医療、観光と結び付けた神戸の農水産物のブランド化により、市場での競争力を強化すること」を位置づけるとともに、「農業従事者の高齢化や不耕作地の増加に対応するため、後継者の育成をはじめ企業やNPOなど様々な担い手を育むこと」を位置づけている。</p>	<p>p. 30 下段</p>

	観光などの魅力的なキーワードとうまく融合させれば、神戸の大都市圏での農業をうまく作っていけると思う。もっとも大事なことは、後継者問題だけでなく、まさに新規参入であると思っている。企業のノウハウが入ってこないと農業再生はない。		
62	・ 消費者からすると安いものが買やすく手に入ればよい。このニーズに答えていることを考えれば、なぜ量販店に行くのかがわかる。コストを下げるために常に流通システムを改良し続けている。流通システムに対して一般の農家、漁業関係者など個人だけに委ねるのは大変だと思うので行政からいい仕組みを提案できればいいのではないかと思う。	・ 第2部の2第1章で、「新鮮で安心・安全な農水産物の供給と都市近郊の立地を活かした多様な販売経路を確立し、「地産地消」を進めること」を位置づけている。	p. 30 下段
63	・ 現在の商業は家主業に変わっていて家賃で食べていて商業はやってない。はずかしながら商業では食べていけない、そのような状況である。	・ 第2部の2第1章で、「商店街・小売市場の活性化のため、地域資源を活かし、まちづくりと一体化した商店街・小売市場をつくるとともに、個店の魅力を高めるための取り組みを進めること」を位置づけている。	p. 31 上段
64	・ 商業はだめといわれると言にくいだが、資料の商業のめざすべき将来の姿で書かれていることは確かにそうだと思う。ただ、震災後、農業・漁業・商業などはビジネスと違う部分での役割を果たしてきた。商業も震災時に地域のプラットフォームとしての役割を果たしてきたが、本来はビジネスとして立ち立ちを考えないといけなかったのにその役割に徹していた。ボランティアでないので、商業、農漁業も、そろそろ「業」として成り立つ施策を本気で考えないと、後継者も新規参入もなく魅力ある産業となっていく。量販店など大資本は知恵、知識を使って革新的なことをやっている。小規模・零細とどう一緒になって考えていくか。コーディネーターが必要だとか、商店街がディベロッパーになってしまっているなどの意見があったが、業として自ら企画開発、人材育成の施策を考えないといけない時期にきている。	・ 第2部の2第1章で、「商店街・小売市場の活性化のため、地域資源を活かし、まちづくりと一体化した商店街・小売市場をつくるとともに、個店の魅力を高めるための取り組みを進めること」を位置づけている。	p. 31 上段
65	・ 魚の価格だが消費者の手元では3倍になっている、マージンがどれだけとられているか。大型店舗の規制が必要。	・ 第2部の2第1章で、「産学連携や農商工連携、都市ブランドの活用などを通じ、健康、医療、観光と結び付けた神戸の農水産物のブランド化により、市場での競争力を強化すること」を位置づけるとともに、「新鮮で安心・安全な農水産物の供給と都市近郊の立地を活かした多様な販売経路を確立し、「地産地消」を進めること」を位置づけている。	p. 30 下段
66	・ 大型店舗の問題だけかどうかは難しい問題かもしれない。	・ 第2部の2第1章で、「商店街・小売市場の活性化のため、個店の魅力を高めるための取り組みを進めること」を位置づけている。 また、都市計画的手法として、「大規模商業施設の適切な立地や、歩いて暮らせるまちづくりを進め、市街地での商業の集積を維持・活用すること」を位置づけている。	p. 31 上段
67	・ 農業の総生産は10兆円を切っていて、そこで生活している人が多くいるので、食料自給率を上げて生産性を上げるようにもって行くことが必要。	・ 第2部の2第1章で、食料自給率を上げるためにも、「農業従事者の高齢化や不耕作地の増加に対応するため、後継者の育成をはじめ企業やNPOなど様々な担い手を育むこと」を位置づけているとともに、「競争力強化のため、ブランド化すること」を位置づけている。	p. 30 下段

68	<p>・活性化とはどこを目指しているのか、地産地消などに心がけている市民もいるのだろうが、現状と比較して15年後にこのまま進めばどうなるのか市民には見えにくい。それが分かれば例えば、地産地消を20%にするなどの市民一人ひとりの心がけが全体を動かすことにつながるだろうと思う。また、新規参入はリスクが高いが、コーディネータ役が必要と思う。例えば、神戸は洋菓子がブランドとして高いのであれば、洋菓子に必要な農産物のカシスやブルーベリーなどを神戸でつくって、需要と供給を結びつける、境界・分野をこえて俯瞰的視点から結びつけ、提案していける人が多く出てくればよいと思う。</p>	<p>・第2部の2第1章で、「産学連携や農商工連携、都市ブランドの活用などを通じ、健康、医療、観光と結び付けた神戸の農水産物のブランド化により、市場での競争力を強化すること」を位置づけている。</p> <p>・また、第2部の2第1章及び第2章で、「市としても事業展開しやすいインフラを整えるとともに、ネットワーク構築のための場づくりやコーディネート機能などの役割を担っていく」旨を位置づけている。</p>	<p>p. 30 下段</p> <p>p. 32 中段</p>
69	<p>・神戸市民は神戸スイーツをまちの誇りとしていて、小さな満足は自信と誇りになる。ケーキ店は「観光名所」であると、ケーキ屋の社長と話をして「不景気風はケーキ屋が景気を良くする」と一緒になって、観光客をもてなしや工夫をされている普段のお店にタクシーで連れていくと、お客さんは感動されている。多くの神戸市民が消費し地域で受け入れられるパンや洋菓子は裾野が広い。神戸のまちの魅力づくりのヒントになると思う。</p>	<p>・第2部の2第3章で、「多彩で地域性のある食文化やユニークなまちおこしなど神戸のライフスタイルそのものを観光資源とすることなど、神戸発の観光スタイル（着地型観光）を推進すること」を位置づけている。</p>	<p>p. 35 上段</p>
70	<p>・神戸に農漁業、商業など魅力的なベースがあるのは間違いないが、うまく浮かび上がってこない、なにかが邪魔しているように思う。従来から成功してきた都市に根ざした産業としてのあり方を抜本的に見直し、既得権益に縛られることなく、集団として、集積、地区としての姿勢を示す構図があれば変わってくる。アメリカの百兆ドルの資金がアジアに回ろうとしており、しがらみのとれた日本の次のステップのところに入ってくるだろうとあるエコノミストと話をしたことがある。地域活性化の核でもある領域のポテンシャルの高い農漁業、商業の新しい計画づくりにそれらがうまくつながればと思う。</p>	<p>・第2部の2第1章で、「地域資源を活かし、まちづくりと一体化した商店街・小売市場をつくとともに、個店の魅力を高めるための取り組みを進めること」を位置づけている。</p> <p>・また、第2部の2第3章で、神戸市外から対内投資のために、「利便性や外国人も含め誰もが暮らしやすい優れた住環境を活用した企業誘致を進めること」を位置づけるとともに、「神戸医療産業都市構想や次世代スーパーコンピュータなどのプロジェクトによる知的な人材の集積を活用した企業誘致や、低炭素社会に貢献する分野など成長著しい新産業における企業誘致を推進すること」を位置づけている。</p>	<p>p. 30 下段</p> <p>p. 35 中段</p>
71	<p>・京都と神戸のまちづくりを比べると、京都は伝統・歴史に愛着を持って伝統をイノベーションしながらまちを維持してきた。神戸は、開港から生活文化産業など情報発信してきたが、京都と違う点は執着心がなく淡泊。重厚長大産業を中心に発展してきた、ファッションなども競争力があり、神戸ビーフ、神戸ウォータなど恵まれたものもある。ただ、スイーツの競争力はブランドイメージとしては残ってはいるものの、この11年間、デパチカでは、名古屋が1位である。灘の酒も量的には多いが高付加価値を付けた品質力という点では他と比べてどうか。神戸ファッションも日本を席卷する時代ではなくなってきつつある。神戸の資源をうまく育てていないことは行政側にも問題はある。何をしっかりと育てていくのか。神戸は比較的豊かだったのかハングリー精神がなくなってきている。過渡期である今なら間に合うのでこれから可能性はあると思っている。</p>	<p>・第1部で、今後の神戸づくりの視点として、「関西圏の主要都市などと連携し、デザイン都市・神戸や神戸医療産業都市構想の推進を始めとした神戸の強みを活かして世界に対して発信力をもった広域連携都市圏（メガ・リージョン）を形成していくこと」が必要であると位置づけている。</p>	<p>p. 18 上段</p>
（議題2 活力・魅力部会審議資料のうち、資料3の6 技術の向上と世界貢献の委員意見等）			
72	<p>・神戸は重厚長大産業の下請けが大半であり、中小・零細製造業は、図面から忠実に造り上げる力、技術力は世界に通用するが創造性という点で弱い面がある。震災後、倒産件数は全国比較では少ない。倒産の大半は後継者がいながらである。</p>	<p>・第2部の2第2章で、「技術と経営に長けた人材を育てるなど中小企業の企画力の向上をめざすこと」を位置づけている。</p> <p>・また、第2部第3章で、「高齢者の持つ熟練した技能を若者へ伝承し、技術の継承に努めること」を位置づけている。</p>	<p>p. 33 中段</p> <p>p. 28 下段</p>

73	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、危惧することは、親会社である大企業が事業編成替えなどで神戸・兵庫から出て行くことと、価格競争の激化である。原子力、造船など新技術については、日本は得意分野である。例えば、自社は家電を扱っているが製品価格は例えば3年で3分の1となっている。また、消費される近くで造るという工業も地産地消になってきている。自動車も米国、欧州同時発売の時代で各国に工場を持ち、家電もそうになってきている。自社も生産拠点を海外に多くおき、国内は800人から400人に減らしており、生き延びるための選択肢である。ただ、コア技術例えば金型は日本においておく。価格競争では、中国がプライスリーダーとなっているので大変な企業努力が必要。技術があっても客が低価格志向なのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2部の2第2章で、「生産拠点が海外に移転する傾向がある」ことを認識した上で、「大企業とのビジネスマッチングなどによる市内中小企業の販路開拓や取引と交流を促進するにより、地域内での技術や知恵の蓄積を図ること」や、「技術と経営に長けた人材を育てるなど中小企業の企画力の向上をめざすこと」を位置づけている。 	p. 33 上段 p. 33 中段
74	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう一つは少子化でものづくり人材の不足である。科学技術高校の卒業生400人のうち大学進学が多く、100名程度しか就職しない。技能者・技術者人材育成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2部第3章で、「高齢者の持つ熟練した技能を若者へ伝承し、技術の継承に努めること」を位置づけている。 	p. 28 下段
75	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界に貢献するというのは付け足しのようなのだが、地域の活力を何によってはかるのかを明確にする必要がある。なにをメルクマールとするか。例えば、技術力の向上で活力をはかるのなら、起業数を増やすのか、研究所を多く誘致するのか。5年、10年かけて割合、数を増やしていくか、何をどう増せば活力・魅力になるか。目標を立て、それに向かって政策を集中してやっついていかないと出てこない。 ・ 技術がどんどん進んでいるので1台数千万円もする設備投資が必要で大変である。新規の起業数では難しい。指標は、生産高とか雇用数だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 序章の計画概念図であるように、「神戸づくりを戦略的に進めていくために実行計画の役割を担う」ため、「選択と集中による重点化の仕組み」をもった「重点施策計画」や「部門別計画」で検討する。 	p. 5 上段
76	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010ビジョンでは評価をずっとやっている。いくつかの指標を出して見ていくということは行われている。戦略的な計画づくり、どういう状況にあるのかみることが必要であるということは重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在2010ビジョンでは、指標として、事業所開業率、神戸ドリームキャッチプロジェクト認定数、製造品出荷額等国内シェア、N I R Oにおける特許移転数、外国・外資系企業誘致、神戸医療産業都市構想誘致数（新規創業含む）、日中ビジネス関連企業数、コンテナ取扱貨物量、有効求人倍率を掲げている。 ・ 今後策定する「重点施策計画」や「部門別計画」で「PDCAサイクルによる検証評価のしくみの継承」のなかで考えていきたい。 	p. 5 上段
77	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起業数が増えるのと雇用者数が増えることは別だと思っている。起業した当時はITが成長できる自由な背景の中で規制もなかったが、商業や農業、工業は規制やヒエラルキーもあり難しいだろう。IT業界は、日本語という言語が障壁になり、市場が海外から参入が少ないという面もある。食料自給率などが国の大きなテーマとなって規制をかけない、地方に委ねるとなれば神戸での展開も可能でないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2部の2第2章で、「市場の発展段階にある再生可能エネルギー、ロボットテクノロジーなどの分野において、大企業や大学等・支援機関などとの連携や特区活用等による規制緩和などを通じ、新たな産業を創造すること」を位置づけている。 	p. 33 下段
78	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内研究機関には防災関連も多い。防災という観点で神戸の特色だせるものないかと思う。産業として防災企業など誘致して減災を目指すなどどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2部の2第2章で、「市場の発展段階にあるロボットテクノロジーなどの分野において、大企業や大学等・支援機関などとの連携を通じ、新たな産業を創造すること」を位置づけている。 ・ 機械金属の工場が集積する旧二葉小学校の跡地を活用し、レスキューロボットの研究の拠点も設置している。 	p. 33 下段

79	<p>・全体を通じてだが、神戸市の基本計画をつくっていく作業として、雇用創出効果があるとか、神戸の産業政策上の強み弱みがあってなどメリハリをきかさないと、この作業が収斂していくことになるか。少々総花的である。例えば、農業のところでもバランスよくやっていると書かれているが、神戸の生産と市民消費比較で自給自足できるかどうか、今までの産業構造と市民生活のバランスが取れているなら地産地消の方がエコロジーであるはず。事務局で神戸方式の案を出して、自立する都市として、域内でどうお金が循環するかが活力の大きな要素である。域内経済活性化、産業構造などを掘り下げて分析して資料を出してもらったほうがわかりやすい。</p>	<p>・第2部の2第1章では、「グローバル化による地域経済への影響に過度に左右されず、安心できる暮らしを守るため、暮らしを支える地域の産業を活性化し、働く場を確保することが重要になってくる」旨の認識をしている。</p> <p>・そこで、「地域に根ざした商業・福祉分野・教育分野や農漁業などにおいて、経済の自律的な循環と市民の目利きなどにより、価値を高め新たな消費を作り出す地域の産業の活性化をめざします」旨を位置づけている。</p> <p>・一方、地域外へ移出・輸出する観点から、「海外市場で需要増加が見込まれ低炭素社会に貢献する成長分野の企業集積と生活文化関連の地場産業の集積を活かし、神戸の強みを十分に発揮した足腰の強い地域経済の構築をめざす」旨を位置づけている。</p> <p>・また、地域外から地域内への人口流入や対内投資を促進する観点から、「MICE など滞在につながる観光をめざすとともに、世界とつながる利便性の高い都市基盤と知的プロジェクトを活用した企業誘致を促進する」旨を位置づけている。</p> <p>・さらには、「将来に向かって希望が持てる創造的なまちづくりを進める」ため、研究機関・大学等、企業の集積と居住環境の良さを活かし研究者などの知的人材の集積を進め、世界的なバイオメディカルクラスターとして、「知の集積」の形成をめざす」旨を位置づけている。</p>	<p>p. 30 前段</p> <p>p. 30 中段</p> <p>p. 32 中段</p> <p>p. 34 中段</p> <p>p. 37 下段</p> <p>p. 46 中段</p>
80	<p>・事務局の資料は、色彩を出さず抑えてつくられており、委員からの意見で議論を深めてうちだしていきたいと考えてつくられている。より踏み込んだ提案をするために、戦略的なポリシープリンスプルがあって技術の向上が神戸でどう役割を担うのか、議論が必要と思うが、このあたり今後議論を深めていきたい。</p>	<p>・第1部の神戸づくりの指針の視点の一つとして位置づけている「新たな価値の創造」は、産業面において重要な観点であり、これにより、雇用の確保、そして、暮らしの安定化につながっていく。</p> <p>・「様々な魅力をもった創造的な都市として発展していくには、3つのT（技術、才能、寛容性）の要素を有すること」の重要性の趣旨を位置づけている。</p> <p>・特に、技術については、第2部の2第2章で、「優れた技術を磨くこと」と「ビジネスモデルの工夫」といったソフトの要素も益々必要になる旨を位置づけている。</p>	<p>p. 17 下段</p> <p>p. 18 上段</p> <p>p. 32 中段</p>
81	<p>・これからは医療産業都市構想と次世代スーパーコンピュータである。例えば、医療機器は多種で幅がある。医師などの人材の意見をよく聴きターゲットを絞った企業誘致をすべき。また医者からの注文で造る医療機器などはブランド的なものが必要。また、次世代スーパーコンピュータを使えるようソフトを作るなど方策など見えてこない。広報、企業誘致に務めてほしい。</p>	<p>・医療機器開発については、第3部第4章で、「先端医療技術の研究開発拠点を整備し、産学官の連携のもと成長産業である医療関連産業の集積」を図り、さらに「移植再生医療などを対象とした高度専門病院の整備と臨床医の集積により、市民をはじめ国内外の患者への高度な医療サービスを提供し、あわせて、新しい医薬品や医療機器の治験ができる環境を整え企業の新たな事業機会を創り出すこと」を位置づけている。</p> <p>・あわせて、広報の充実のため、「先端医療研究に関する分かりやすい情報提供をすすめること」を位置づけている。</p> <p>・また、次世代スーパーコンピュータについては、第2部の2第2章と第3部第4章で、「地域経済の活性化のため、次世代スーパーコンピュータを利活用し、これまで実現できなかったシミュレーションによる新製品の開発や研究開発コスト削減に取り組む事業者を支援すること」を位置づけている。</p>	<p>p. 46 中段</p> <p>p. 46 下段</p> <p>p. 46 下段</p>

82	<ul style="list-style-type: none"> 「知の集積」で議論されることだろうが、ポートアイランドの利用は神戸市にとって極めて重要である。スパコン、医療、ロボット、創薬など産学、市、県の連携をうまく作って起爆剤とするなど強調してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第7部第2章で、「神戸医療産業都市構想や次世代スーパーコンピュータの利活用の取組みを推進すること」や、「ライフサイエンス分野、計算科学関連などの企業・研究機関・大学の知的人材が集積・交流する知識創造の場を形成すること」、「知識創造の場にふさわしい高質なまちづくりと人材の集積をすすめる」など「知の集積の形成を通じて、世界に開かれた未来指向型都市の創生をはかる」旨を位置づけている。 	p. 83 中段
83	<ul style="list-style-type: none"> 労働者に多く給料を払える企業がどれだけ来てくれるかが重要、就業者に対するインカム。樹研やニデックなどどうして中京が強いのか調査したことがあるが、東京を見ないで世界を見ている企業がしっかりしている印象がある。スパコン、医療産業都市は、イノベーションの核をここにおいているだけで、新しい企業がどれだけくるか。神戸市の企業誘致はフレキシビリティあるが、(研究とつながる産業の) 方向性がまだ難しい問題がある。高い給料が払われる企業がどれだけ来てくれるか、考案いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第4章で、「研究機関・大学等、企業の集積と居住環境の良さなどを活かし研究者などの知的人材の集積を進めることや、関西全体の研究ネットワークを強化し、海外バイオメディカルクラスターと連携した世界的なバイオメディカルクラスターとして、知の集積をめざす」旨を位置づけている。 第2部の2第3章で、「進出企業へのワンストップサービスの提供や進出後の定着のための支援を充実する」ことも位置づけている。 	p. 46 中段 p. 35 下段
84	<ul style="list-style-type: none"> 地域政策の関連から、様々な分野との連携を行政としてどうマネージメントできるか、教育、産学連携が重要で、これから重点化おいていただき、必然的に雇用につながってくるかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第2章で、「大学や研究機関の研究者など、新分野開発に求心力のある「人材」の参画を促す仕組みと、中小企業と大学等や研究機関との技術の交流と移転の場をつくること」や、「企業の集積する場所で既存施設などを活用し、中小企業と大学等の研究者が共同研究開発しやすい環境を整えること」を位置づけている。 	p. 32 下段
(議題3 活力・魅力部会審議資料のうち、資料7(1)のデザインをいかしたものづくりの支援に係る委員意見等)			
85	<ul style="list-style-type: none"> パン、洋菓子、酒類などシェアが高いとの説明であるがネームバリューの割りに2%や4%程度で十分なシェアといえるのか。神戸の機械金属などではシェアが高いことはあまり知られていない一方で、東大阪のイメージの方が強い。倒産より後継者不足、企業に来てくれることが重要ということであれば、ブランドイメージが高くなると後継者や担い手が増えてくるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第2章で、「コンテストなどを通じた、優れたデザインに共感・共鳴できる市民の風土づくりや、人材の発掘・育成を進めること」や、「デザインを核にブランド力の強化と国内外での販路開拓を進めること」を位置づけている。 	p. 33 上段
86	<ul style="list-style-type: none"> 相対的にケーキのシェアは高いと思う。せつかく競争力のある間にシェアをキープできる風土が大事であるということ。今、質を高めないと新興勢力に負けてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第2章で、「コンテストなどを通じた、優れたデザインに共感・共鳴できる市民の風土づくりや、人材の発掘・育成を進めること」を位置づけている。 	p. 33 上段
87	<ul style="list-style-type: none"> 科学研究もデザインも基本は個人に依存するところが大きい。個人を育てても他所に行ってしまう。育てるだけでなく、神戸でどう使うかが大事。芸術家の研修施設もどう使うか。日本はそういうところが下手である。日本で売っているお菓子は、神戸が多いと感じた。神戸の強みは大衆の力であり、商品を大衆好みにしていく力であり、大衆の使い方である。京都のお菓子は買いに来いという感じだ。デザイン、科学のイノベーションはどう使われるかである。北野でいろんな建築家の建物があって素晴らしいと思うが、使われ方が大事である。有名な建築家が建築した建物が見えないという現状もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第2章で、デザインの活用として、「デザイン事務所が集積し中小企業が相談できる拠点づくりと外部デザイナー情報の集約と提供など、すぐれたデザインと企業が出会う場づくりを進めること」を位置づけている。 第3部第4章では、研究成果の活用で、「研究開発の成果を新事業の創出に速やかに結びつける仕組みや高度医療サービスを提供する機能を具体化することが今後のクラスターの発展に重要となっている」旨を位置づけている。 景観などの活用では、第4部第2章で、「北野、旧居留地など特徴的なまちなみを有する地区において、地域との協働による景観への取り組みを進めること」を位置づけている。 また、第3部第3章で、「文化芸術を担う創造的な人材を育むこと」や「文化芸術をまちづくりに活かし、産業や賑わいを創出すること」を位置づけている。 	p. 33 上段 p. 46 上段 p. 53 中段 p. 45 上段

88	<p>・ものづくりは物質ばかりでなく精神的なものもある。函館は魅力あるまち1位で夜景の日をつくるなど一体感がある。まちづくりに一体感を取り入れていただきたい。神戸まつりもインフルエンザをやめたが再開して活気付いてきた。また、神戸は国際宗教都市ともいえ、回教、ジャイナ教など様々に存在する。ローマ観光の目玉の一つは教会廻り、都市として国際性を取り入れていただきたい。</p>	<p>・第3部第3章で、「市内各地に存在する有形無形の歴史的・文化的資源を活かし、文化に対する理解を促進し、まちや地域への愛着を育み、地域文化を振興する」ことを位置づけている。</p> <p>・また、第7部第1章で、「協会などの宗教施設や外国人学校が数多く建てられているなど、豊かな国際性が神戸のアイデンティティである」認識しており、「外国文化への理解を深める機会の創出に努めること」や「外国人コミュニティの支援を充実する」ことを位置づけている。</p>	<p>p. 44 下段</p> <p>p. 78～80</p>
89	<p>・デザイナーの考案したものを、どういう形で保護し、報酬の面でフォローしていくのか。「デザイン都市・神戸」を進める上で、法的な整備や保護の仕組みの整備が必要。</p>	<p>・「デザイン都市・神戸」を具体化する施策のなかで、デザインの権利保護に関する普及・啓発についても留意していく。</p>	<p>p. 33 上段関連</p>
90	<p>・デザインを技術利用する場合の基本は、それを使える仕組みがあること。一つひとつのデザインを大衆化していく仕組みが大事。その力が神戸にはある。ワールドやジャヴァ、ファミリアやイズムなどそういった会社がある。ケーキやサラダもひとつのデザインなので、それらを強みとしてうまくいかしていく。なぜ、毎年ウィーンフィルが日本に来るか。それはウィーンにはウィナホルンを直す楽器職人がいないが日本にはいるからである。デザイナーや伝統を抱える、それが重要なポイントである。</p>	<p>・第2部の2第2章で、デザインの活用として、「デザイン事務所が集積し中小企業が相談できる拠点づくりと外部デザイナー情報の集約と提供など、すぐれたデザインと企業が出会う場づくりを進めること」を位置づけている。</p>	<p>p. 33 上段</p>
91	<p>・藍那との協働で米をつくり酒にして、大学で販売する、デザインの知恵が農業と商業を結びつけ流通にのせる仕組みをめざすが、酒税の問題など規制がある中、大学が次のステージを生み出すチャンスにチャレンジしている。資料にあるビジネスマッチングの仕組みにすべて大学が関わっている。企業、大学、神戸大、学園都市ユニティ連携、京都、工芸繊維、大阪大の連携等ほかの近畿圏の大学の連携をマネジメントしている。神戸の就業者のうち技術者の数が多いとの資料があったが、社会や技術を支える人材が神戸にたくさんいる。産業を生み出す土地であり、それらにデザインをいかして価値を生み出していく、その仕掛けが必要であると思う。デザイナーは、世界、アジアと直結して仕事している。神戸は、神戸だけでなく大阪、京都から人材を手繰り寄せ、素晴らしい技術とニーズがある必要があり、ここにクリエイティブな視点が必要になる。デザインは単なるものではなく心でもある。それをどこにストックするか人材であり日常の生活である。そして、デザインは、単なるものでなく、価値化できるかという議論が必要。ストックされる人材を養成して育成することが必要である。神戸の施策の方向性として身近な居住環境、教育、医療などの基盤を押さえながら、新しい魅力を組んでいくことが課題と思っている。分野を超えていくものがデザインであるので、それに対応する国県市の組織、窓口の準備が必要である。</p>	<p>・第2部の2第2章で、「企画・製造・販売に至る事業過程においてデザイン（造形・機能・ビジネスモデルの工夫）により新たな市場の創造をめざす」旨や、「市は事業展開しやすいインフラを整えるとともに、ネットワーク構築のための場づくりやコーディネート機能などの役割を担う」旨を位置づけている。</p> <p>・また、「デザイン事務所が集積し中小企業が相談できる拠点づくりと外部デザイナー情報の集約と提供など、すぐれたデザインと企業が出会う場づくりを進めること」を位置づけている。</p> <p>・さらに、第3部第3章で、「アニメーションや映画などメディア芸術に関し、地元資源を活かし、大学等との連携を図りながら、コンテンツなどをつくりだす新たなクリエイティブな人材を育成するとともに、産業としての振興をめざすこと」を位置づけている。</p>	<p>p. 32 中段</p> <p>p. 33 上段</p> <p>p. 45 中段</p>
92	<p>・担い手の育成、人材の育成であるが、やる気のある人を探すこと、その人を支える仕組みづくりが大切。技術面、知恵、資金があるが、大事なのは気持ちを持ち続けることである。人材育成では、人の気持ちを支える仕組みがないと起業しても続かない。昔の魚屋さんや電気屋さんがそうであったように、利用者の求めるものを供給側がわかっていることがありがたがられ、求められている。現代はそういったサービスが必要とされている転換</p>	<p>・第2部第3章で、「多様な人材確保による企業体質の強化や生産性の向上のため、多様な働き方を啓発・推進する」ことや、第2部の2第2章で、「中小・ベンチャー企業などの有望な事業計画に対する起業・第二創業支援策を充実」することを位置づけている。</p> <p>・利用者の求めるものへの転換という視点では、第2部の2第1章で、「地域に密着した商業者、サービス事業者の顔の見える関係を活かし、地域住民のニーズに対応したサー</p>	<p>p. 28 下段</p> <p>p. 33 下段</p> <p>p. 31 上段</p>

	<p>点の時期だと考える。高付加価値で高いものが売れる仕組みもある。</p>	<p>ビスの仕組みづくりを進めること」を位置づけている。</p> <p>・また、第2部の2第2章で、「企画・製造・販売に至る事業過程においてデザイン（造形・機能・ビジネスモデルの工夫）により新たな市場の創造をめざす」旨を位置づけている。</p>	<p>p. 32 中段</p>
93	<p>・神戸のクオリティの高さが伝わってきた。日常の中でどれだけ感じられる発信がされているか。どう組み合わせで発信力を持つかである。それらを統合してそれをブランド、デザインというのが発信できればよいと思う。</p>	<p>・第2部の2第2章で、「デザインを核にブランド力の強化と国内外での販路開拓を進めること」を位置づけている。</p>	<p>p. 33 上段</p>
94	<p>・デザインを活かしたものづくり、ブランドというのは一種の価値観であると思うが、それが活かされていることが大事であると思う。</p>	<p>・第2部の2第2章で、「コンテストなどを通じた、優れたデザインに共感・共鳴できる市民の風土づくりや、人材の発掘・育成を進めること」を位置づけている。</p>	<p>p. 33 上段</p>
95	<p>・コーディネーターが必要との指摘が多くあったが、業界ごとに困っている点や課題をまとめて整理されているものがあるだろうと思うので整理いただき示してほしい。また、めざすべき将来の姿が抽象的なのでこの言葉をどのように引き出したのか裏づけることや成功事例と成功の秘訣なども示していただければと思う。また、シェアの高いものだけでなく、今、急激に増えている、伸びている企業や産業、例えば、ロックフィールドの惣菜、計測機器のシスメックスなどの成功の原因なども資料としてそろえてもらえれば議論しやすいだろう。</p> <p>・神戸の女性が働ける場、高齢者をいかす方策などといった仕組み、活力の源泉となるものも資料として、例えば、ボランティアで退職教員をいかす門真学校の例なども資料として出していただければ抽象化に役立つかと思う。</p>	<p>・先進的な事例紹介を、今後、説明資料の中で添付していくことを検討する。</p> <p>・第2部の2第3章で、「社会活動の活性化を図るため、女性や高齢者を含む幅広い人材がそれぞれの能力を発揮して働くことができるような多様な働き方を推進する」ことを位置づけている。</p>	<p>p. 28 下段</p>
96	<p>・京都の会社など、欲しかったら取りに来てというのが京都企業であり、東京などに進出しないが高収益で地域に根ざした合理的経営。これに対し、神戸式経営というようなものがあるのであれば神戸を考えていく上で重要であると思う。</p>	<p>・神戸が地域としてもつ強みを活かすよう、第2部の2第2章で、「海外市場で需要増加が見込まれ低炭素社会に貢献する成長分野の産業集積や、生活文化関連の地場産業の集積を活かす」旨を位置づけている。</p> <p>・また、第3部第4章で、「研究機関・大学・企業などの集積と居住環境の良さを活かし研究者などの知的人材の集積を進めることで、世界的なバイオメディカルクラスターとしての知の集積の形成をめざす」旨を位置づけている。</p>	<p>p. 32 中段</p> <p>p. 46 中段</p>

第3回活力・魅力部会（平成21年11月8日）

発言番号	意見の内容	指針素案での取り扱い	該当箇所
（議題1 活力・魅力部会審議資料のうち、1 働く場の確保と人材の育成及び、2 産業の振興による地域社会の活性化のうち（2）暮らしを支える企業の育成に係る委員意見等）			
97	・ 派遣問題については雇用する側が雇うかどうか委ねられているところがある。企業は経営上、コストを抑えようとするから、派遣制度がある以上は利用するのはしかたがないが、同じ仕事であれば同じ賃金、報酬を支払う方がよいと思っており必要であると考えている。	・ 第2部第3章で、「非正規労働者の割合が増加傾向にある」との認識のもと、「市民は就業能力の向上、事業者は勤務環境の整備、市は働きやすさのための制度設計などを国・県との連携のもと努める」旨を位置づけている。また「企業誘致などを進めることにより働く場を安定的に確保することを位置づけている。	p. 28 中段 p. 29 上段
98	・ 派遣と正規の賃金格差が話題になっているが、非正規が正社員の給料の半分という極端なことはない。中小企業は労働集約型が多く、昔は親会社との関係で受注保障されていたが、今は製品の価格競争が激しくなってすべて受注できるとは限らない。特に自動車業界などでは入札で契約がとれないと4年間仕事がなくなることになりその後の保障ができないので、社員の半分以上は非正規に頼らざるを得ない。社会の仕組みが変わってきたことが事実としてある。	・ 第2部の2第2章で、「生産拠点が海外に移転する傾向」がある認識のもと、「中小企業が成長分野の大企業との取引や産学連携による技術開発を通じて、独自のものづくり技術を磨くまちをめざす」旨と位置づけている。 ・ また、第2部第3章で「市民は就業能力の向上、事業者は勤務環境の整備、市は働きやすさのための制度設計などを国・県との連携のもと努める」旨を位置づけ、各施策をすすめるともに、「企業誘致などを進めることにより働く場を安定的に確保すること」を位置づけている。	p. 32 中段 p. 28 中段 p. 29 上段
99	・ ワーク・ライフ・バランス、女性の就業環境の整備など最近はそのような言葉で言われているが、企業は昔から雇用確保のために対策を取っている。例えば、女性社員の雇用確保のために社内にスーパーから出向いてもらうといったことも考えてきていた。個別企業の取り組みのほか、制度として支援は必要であるかとも思うので、多いに議論をして働きやすいシステムをつくることは大事。出産後の復帰に向けた企業の取り組みや当事者のブランクに対する意識の差もあり、ギャップに対するきめ細かい制度も必要。	・ 第2部第3章で、「女性や高齢者を含む幅広い人材がそれぞれの能力を発揮して働くことができるような多様な働き方を推進すること」を位置づけている。 ・ また、「子育てや介護と両立することができる、働きやすい環境づくり」や、「学び直しや子育て後の再就職支援を進める」ことを位置づけている。	p. 28 下段
100	・ 製造業はグローバル社会の中で一層過酷なコスト競争にさらされ、労働力は景気循環に左右される。介護・医療など3次産業に力を入れない限り雇用の吸収は困難。神戸には処遇がいい企業や雇用があるといった産業がないと長期的に難しい。他都市で医療・介護などの産業施策を打ち出せばそちらにとられてしまうので早めに介護・医療産業を強化すべき。	・ 第2部の2第1章で、「介護や福祉、子育てや教育分野での社会的企業などの参入を進め、雇用の場と働きやすい環境をつくること」を位置づけている。	p. 31 下段
101	・ 「安定した雇用の場の確保」と「多様な働きがいのある社会の構築」は非正規の点に注目すれば相矛盾するものである。非正規雇用がすべて悪というわけではなく、モビリティという流動性を高めつつ労働の場で気概を持って働けるような戦略をもっていくことが必要ではないか。	・ 第2部第3章で、流動性を高めると同時に、「働く場を安定的に確保すること」が必要であると認識している。 ・ 「安定的に」は、「確保」にかかる言葉と意図している。また、同時に「多様な働き方」、「能力の向上」、「働きたい人の希望と働く場のコーディネート」などによる流動性の向上についても位置づけている。	p. 28～29
102	・ 女性就業率が神戸は低く、一方で労働力不足であるなら、眠っている女性の労働力を活用したり、介護・看護支援ニーズに対する労働につなげる支援も考えるべき。結婚退職後、ハローワークでパソコン講座を受けたが就業支援はなくアフターケアがなかった。働く場の紹介や就業に挑戦する若い人への支援があれば将来の仕事につながる。	・ 第2部第3章で、「女性や高齢者を含む幅広い人材がそれぞれの能力を発揮して働くことができるような多様な働き方を推進すること」を位置づけている。また、「子育てや介護と両立することができる、働きやすい環境づくり」や、「学び直しや子育て後の再就職支援を進める」ことを位置づけている。	p. 28 下段
103	・ 神戸の女性就業率が低い理由が仮に個人的な介護のためだとすれば、介護施設サービスや他の親も地域で看るなど、「介護」の社会化、社会的企業による解決を図ればどうか。	・ 第2部の2第1章で、「介護や福祉、子育てや教育分野での社会的企業などの参入を進め、雇用の場と働きやすい環境をつくること」を位置づけている。	p. 31 下段

104	<ul style="list-style-type: none"> 社会的企業は、行政・民間が担えない社会課題を解決する事業主体であるが、「業」として成り立って雇用が吸収できるようなパイを持てるようにすることが大切。ワークシェアリングは仕事の分け合いであるが社会的企業はパイを拡大する。例えば、林業で植えた木が売れる時は孫の世代であるが、それを受け継ぐ人がいないという事例が報道されていたが、まさにそういう視点も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第1章で、「介護・福祉、子育て・教育など個人や地域の暮らしに関わる社会的な課題を、民間の知恵や事業手法を通じて解決する社会的企業が活躍できる社会をつくることをめざす」旨を位置づけている。 	p. 30 中段
105	<ul style="list-style-type: none"> 雇用の裏側に産業があり社会的企業は1つのジャンル。将来の神戸をめざしてどうするのかという視点が必要。東京は一人勝ちで地方はどこも同じ政策を考えがちである。神戸の産業構造の中で、医療産業やアニメーションなどもあるだろうが、やはり神戸は「港」が強みである。雇用ミスマッチは、マクロか神戸市レベルでみるかどうか市の対応が異なる。労働力には流動性があるので、社会増につながる施策が必要であり、労働力流入につながるような施策が必要である。神戸では神戸の強みをいかしたこの産業を育てていくといった、政策へつなげていく合理的な議論が必要である。ミスマッチに対する職業訓練も大事であるが、本当の働き方のあり方、多様な人々に対応する職の多様性も大事であって、無理してまで例えば介護1分野を職業訓練してもしかたがない。個性をいかした多様な働き方を提供するアプローチが必要である。また、ワーク・ライフ・バランスは、労働の質とライフの質のバランスが重要である。働き甲斐とか、働く意味、生きる力といった人間教育の面がないと、本当の意味での就業意欲にはつながらない、そういった点を重視すべきだと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部第3章で、「神戸の基幹産業であるものづくりやみなとの物流など神戸が優位な分野、医療、教育などの知的分野、福祉・観光などの雇用吸収力のある分野、に重点化した企業誘致を進めることで、働く場を確保すること」を位置づけている。 また、めざす姿で、「一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、女性や高齢者など幅広い人材が活躍する多様で柔軟な生き方を選択できる「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の実現をめざす」旨や、「働くことを通じて、個人が能力を発揮し自己の実現を図ることや、社会に参画し社会全体の活力の維持を目的とする「全員参加型社会」の実現をめざす」旨を位置づけている。 	p. 29 上段 p. 28 中段
106	<ul style="list-style-type: none"> 社会的企業は、中間労働市場から通常の労働市場へ入っていけない人、はじき出された人を、いきがいを含めて働くということを考える領域と認識されるが、地域に根ざした神戸固有の働き方が大事になってくるということであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第1章で、「地域の課題を解決する社会的企業の仕事を通じて、若年無業者などへの職業の訓練と通常の労働市場へ戻るきっかけとなる機会を提供すること」を位置づけている。 	p. 31 中段
(議題2 活力・魅力部会審議資料のうち、3 先進港神戸と神戸空港に係る委員意見等)			
107	<ul style="list-style-type: none"> 神戸港は神戸経済の中心ではあるが、スーパー中枢港は全国に2つでいいと現政権はいつている。今後も西日本のハブ港として莫大なお金を使って、今、整備する必要があるのか疑問。モーダルシフトに努めCO2を減らすなど、環境配慮の方向に転じるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部第3章で、「これからの神戸の活力・魅力あるまちづくりを支えるため、神戸港や神戸空港などを関西のメガ・リージョンにおける都市基盤として機能強化することをはじめ、環境にも配慮した海・空・陸の総合的な交通環境の形成をする」旨を位置づけている。 	p. 64 中段
108	<ul style="list-style-type: none"> 神戸空港の搭乗率7割は、昔は大型機であったが今は小型中型機であり、それを比較すると7割は超えない。また、今年度3億円赤字の予算を組んでおり現実を見て見直すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部第3章で「これからの神戸の活力・魅力あるまちづくりを支えるため、神戸港や神戸空港などを関西のメガ・リージョンにおける都市基盤として機能強化する」旨を位置づけている。 そのため、航空路線航空路線ネットワークの拡充を図るとともに、空港の運用時間延長、発着枠の拡大、メディカルツーリズムなど東アジア諸国との交流を促進するための国際便（ビジネスジェット・チャーター便）受入条件の緩和など機能充実に向けた取り組みを推進すること」を位置づけている。 	p. 64 中段 p. 64 下段
109	<ul style="list-style-type: none"> 神戸港の衰退は、韓国や台湾など他の港が国家を挙げて活性化に取り組んできたため、自治体レベルでは難しいところもあったが、ポートセールスだけでなく天津や上海長江プロジェクトでビジネス交渉を市も支援し推進するべき。神戸は具体的なビジネスの話がでないからおもしろくない、という声も聞く。神戸市でも、極東・ロシアなどに着目して参画してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第4章で、「海外のバイオメディカルクラスターとの連携による世界的な研究機関、企業、研究者とのネットワークを構築すること」、「相互の発展に資する都市間ネットワーク交流を通じた海外人材の集積・交流を行うこと」を位置づけている。 また、第2部の2第2章で、「中小企業がアジアをはじめとする海外市場展開に取り組める環境づくりを行うこと」を位置づけている。 	p. 47 上段 p. 47 中段 p. 33 中段

110	<ul style="list-style-type: none"> 都市の装置として「港」を書き込んで欲しい。貨物量、ポートセールスは当然に頑張っていたが、港の位置づけとしては、神戸経済、活力・魅力ある産業をどう貼り付けていくか。貨物、旅客、造船、海運、海事従事者養成など単なる駅でない海事クラスターとする意識が必要。都市空間を活用して市内総生産、雇用を増やすため臨海部についても力を入れていただきたい。瀬戸内クルーズも、造船業や集客観光都市としての魅力として、神戸が母港となることで広域集客のコアな港となり、ミニクラスターとなるのでお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第3章で、「内航海運のさらなる強化など、西日本の国際ハブ港としての機能を最大限発揮することにより、進出企業の利便性を高めて産業集積を促進すること」や、「アジア・瀬戸内クルーズの母港化などによる周遊と滞在につながる観光を促進すること」を位置づけている。 	<p>p. 35 下段</p> <p>p. 34 下段</p>
111	<ul style="list-style-type: none"> 神戸空港では、関空、伊丹3空港問題について、大阪府知事は関空と神戸といていたが、関空との連携、例えば、関空発着便に神戸空港の国内便の時間を合わせるとか考慮して検討いただくとかが活用のポイントであると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部第3章で、「神戸空港などを関西のメガ・リージョンにおける都市基盤として機能強化する」旨を位置づけ、「海上アクセスの活用促進などをはじめ、関西国際空港と神戸空港との連携強化による海外とのゲートウェイ機能の充実のほか、関西3空港の一体運用を進める」ことを位置づけている。 	<p>p. 64 中段</p> <p>p. 64 下段</p>
112	<ul style="list-style-type: none"> 日本航空撤退はどうしようもないので空港という資産をもっと評価すべき。景気によってはまた戻ってくるかもしれないが、早朝夜間の増便に務めていただきたい。医療ツーリズムという考えで、中東、ロシア、韓国、中国などからビジネスジェットを利用した患者を受け入れて医療産業に活用すること。そのためにはまず病院が必要であり、需要がどれくらいあるかを現地を良くみて掴んで、例えば中東なら一般市民が補助を受けて海外に医療を求めてやってくる。そういった神戸空港の利用ももっと考えるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部第3章で、航空路線航空路線ネットワークの拡充を図るとともに、空港の運用時間延長、発着枠の拡大、メディカルツーリズムなど東アジア諸国との交流を促進するための国際便（ビジネスジェット・チャーター便）受入条件の緩和など機能充実に向けた取り組みを推進すること」を位置づけている。 また、第3部第4章においても、医療産業都市構想の観点から「高度専門病院への集積を活用し、国内外から患者を受け入れるメディカルツーリズムを進めること」を位置づけている 	<p>p. 64 下段</p> <p>p. 46 下段</p>
113	<ul style="list-style-type: none"> 空港は貨物ももっと考えればよい。日本全国の特産品を神戸に集めてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部第3章で、「航空路線航空路線ネットワークの拡充を図るとともに、空港の運用時間延長、発着枠の拡大など機能充実に向けた取り組みを推進すること」を位置づけている。 	<p>p. 64 下段</p>
114	<ul style="list-style-type: none"> 航空会社は赤字だが、ライアンエアーは黒字。ローコストキャリアもつぶれるところがあるが、運輸行政の規制は多いがオープンスカイになってくれればかわってくるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部第3章で、「航空路線航空路線ネットワークの拡充を図るとともに、空港の運用時間延長、発着枠の拡大、メディカルツーリズムなど東アジア諸国との交流を促進するための国際便（ビジネスジェット・チャーター便）受入条件の緩和など機能充実に向けた取り組みを推進すること」を位置づけている。 	<p>p. 64 下段</p>
115	<ul style="list-style-type: none"> 空港と港はセットで考えればよい。鮮度の高いものは飛行機、ゆっくりならば船というようにニーズがそれぞれある。時間をコストに換算している。医療産業都市が根付いていけば世界に向けて出て行くものもあるだろうから、セットにして考えていただければよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部第3章で「これからの神戸の活力・魅力あるまちづくりを支えるため、神戸港や神戸空港などを関西のメガ・リージョンにおける都市基盤として機能強化する」旨を位置づけている。 その上で、「人の交流を促進する交通環境の形成する」と「経済を活性化し、環境にやさしい交通環境を形成する」ための取り組みを位置づけている 	<p>P. 64 中段</p> <p>P. 64 下段</p> <p>P. 65 下段</p>
116	<ul style="list-style-type: none"> 先端医療の患者のための空港のバリアフリー強化など新幹線より空港を使いたいと思わせるサービスをつくれればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第4章で、「高度専門病院の集積を活用し、国内外から患者を受け入れるメディカルツーリズムを進めること」を位置づけるとともに、第3部第1章で、「観光におけるユニバーサルデザインの推進などを通じて、誰もが訪れやすいまちづくりを進めること」を位置づけている。 	<p>p. 46 下段</p> <p>p. 39 上段</p>

(議題3 活力・魅力部会審議資料のうち、5知の集積による新たな価値創造に係る委員意見等)			
<p>117</p>	<p>・医療産業都市構想から11年を経ている。医師会は市民のかかりつけ医集団であるので医療産業都市構想のサポートや意見を言いたい。</p> <p>①いきなりの苦言であるが、医療荒廃を市民も感じている。メディカルイノベーションシステムは、市民の目線からかけ離れているという印象をもつのでこの場でも議論いただきたい。</p> <p>②また、医工連携については、医療、介護の現場からのニーズから発せられたものか疑問視されている。産業振興の観点からだけでなく、市民に向けた産官学のアナウンスが必要で、市民の求めるゴールはなにか検証すべき時であると考えます。</p> <p>③市民向けの情報発信の方向について、市民の合意がなければ説明責任は果たせない。</p> <p>④関西バイオメディカル構想では、大阪で創薬、神戸は再生医療としていたが、分子イメージングセンターが神戸で動き出してから、創薬を神戸ならやれるのでないかという風潮が強まっている。市民がどう受け止めているか。</p> <p>⑤新市民病院構想は、中央市民病院が先端医療センターと隣接した新病院、高度専門病院群と一体的になったものであり、スーパー特区に絡む病院も含め、あの地域に1次からスーパー3次医療までが集約されていくものである。ただ、病床数の規制もあり、慣れ親しんだ病院が移転してしまうことが、市民の求めていることなのか。</p> <p>⑥健康を楽しむまちづくり構想は、市民参加という点で後付された構想で、これが本当に神戸の地場産業の発展に寄与するのであれば良いが、個人認証、個人情報保護の観点から行政がどこまで、個人の健康に踏み込めるのか。いずれも市民の意思、目線から考えてもらいたい。</p>	<p>・第2部第2章で、「健康にくらすための環境づくり」として、「市民の健康が維持・増進され、安心してくらす社会をめざす」旨を位置づけ、「救急医療体制の充実」「3次救急を担う中央市民病院の充実」、「かかりつけの推進など地域で患者の継続的な医療を支える体制の充実」などを位置づけている。</p> <p>・部門別ビジョンである神戸健康科学（ライフサイエンス）振興ビジョンにおいて、「トランスレーショナルリサーチ（基礎から臨床応用への橋渡し研究）機能を、安全性や科学性に立脚しつつ「研究」と「治験」のフィードバックを短縮する「メディカルイノベーションシステム」が神戸で実現することにより、市民にとっては、例えば、難知性疾患に対する新たな治療法の開発や、専門医による高度医療サービスの提供、生活習慣病の予防などの効果を楽しめる」とされている。</p> <p>・医工連携については、第3部第4章で、「高度専門病院の整備と臨床医の集積により、市民をはじめ国内外への患者への高度医療サービスを提供し、あわせて、新しい医薬品や医療機器の治験ができる環境を整え新たな事業機会を創り出すこと」を位置づけている。</p> <p>・部門別ビジョンである振興ビジョンにおいて、先端医療研究に関するわかりやすい情報提供を行い、患者の理解を深め、安全で有効な臨床研究を推進するとともに、市民や事業者の参画を促進するとされている。</p> <p>・部門別ビジョンである振興ビジョンにおいて、ライフサイエンス分野における国際競争力を高めるため、医薬品の基礎研究と創薬産業が集積する大阪北部地域や医療関連の分析・測定機器が強い京都地域及びけいはんな地域をはじめ、関西全体でのスーパークラスターの形成による取り組みが必要とされている。「市民、医療関係者、大学及び研究機関等の協調・協力のもとで、具体化に向けた取り組みを進めることが不可欠」とされている。</p> <p>・第2部第2章「三次救急を担う中央市民病院の救急医療・高度医療・急性期医療提供体制などの充実をめざす」旨を位置づけている。</p> <p>・部門別ビジョンの振興ビジョンにおいて、健康を楽しむまちづくりの具体化にあたって、個人情報保護に十分配慮するとされている。</p>	<p>p. 26 下段 p. 27 上段</p> <p>p. 46 下段</p> <p>p. 26 下段</p>

118	<p>・ メディカルツーリズムに力を入れているのは国民医療が育っていない国で、高度医療を持てば神戸も勝てるだろうが、一番重要なのは神戸市民が良い医療を受け入れることであり、医療評価で患者満足度を上げること、長期間の視点で診ることが大事。また、市民にとっては高度な医療が神戸に集中していることもメリットである。総合病院システムが医療費削減の考え方であるが、インテグレイティブプラクティスユニット(統括的業務手法)、エリア毎に得意な医療が集中すること、満足度の高い医療、長期間の疾病管理、適正な医療費というものが実現されれば、医療費が上がってきても一般の方の理解は得られると思う。</p>	<p>・ 第2部第2章で、「病院や地域の診療所・歯科診療所・薬局などの役割分担や連携、消防機関との連携などを促進すること、あわせて地域医療機関などによる健康情報の発信や「かかりつけ」の推進など地域で患者の継続的な医療を支える体制の充実をめざすこと」を位置づけている。</p> <p>・ その上で、第3部第4章で、「移植再生医療などを対象とした高度専門病院の整備と臨床医の集積により、市民をはじめ国内外の患者への高度な医療サービスを提供すること」や「高度専門病院の集積を活用し、国内外からの患者を受け入れるメディカルツーリズムを進めること」により、「雇用の確保と神戸経済の活性化、先端医療技術の提供による市内の医療水準の向上と国際社会への貢献をめざす」旨を位置づけている。</p>	<p>p. 27 上段</p> <p>p. 46 下段</p>
119	<p>・ 先進国では、建設業5%、医療10%の割合であるが神戸はそれに近づいており、その中で医療産業都市構想を考えればよい。産業というところがわかりにくい患者満足度を高めるサービスを提供し、実現するための仕組みとして医師会とともに話し合っていながら医療産業都市構想を進めることが必要。</p>	<p>・ 第3部第4章で、「先端医療技術の提供による市内医療水準の向上」を位置づけており、また、部門別のビジョンである振興ビジョンにも、「市民、医療関係者、大学及び研究機関等の協調・協力のもとで、具体化に向けた取り組みを進めることが不可欠」とされている。</p>	<p>p. 46 下段</p>
120	<p>・ 医療産業都市、空港、次世代スーパーコンピュータなどのポートアイランド地域は、一部の人だけでなく大衆を引き付ける魅力あるまちづくりの仕掛け方策が必要で、もっと市民に認知をしてもらうことで皆で動いていけるような活気を出すべきである。</p>	<p>・ 第7部第2章で、「緑豊かで高質なまちづくりを進める」旨や「多様な人財の受け入れのため、ホスピタリティの向上を促進する」旨を位置づけている。また、市民認知の向上のため、第3部第4章で、「先端医療研究に関する分かりやすい情報提供」を位置づけている。</p>	<p>p. 83 中段</p> <p>p. 46 下段</p>
121	<p>・ 知の集積ということであれば、島根に市が積極的に集積を図ってきたオープンソースのコミュニティがある。神戸でも地域 ICT 推進協議会(COPRI)で取り組みを始めている。それを核に、お金のかからない知の集積を図っていきたく考えている。</p>	<p>・ 第2部の2第2章で、「事業展開しやすいインフラを整えるとともに、ネットワーク構築のための場づくりやコーディネート機能の役割を担っていく」旨を位置づけている。</p> <p>・ また、第3部第3章では、「地元資源を活かし、大学等と連携を図りながら、コンテンツなどをつくりだす新たなクリエイティブな人材を育成するとともに、産業としての振興をめざすこと」を位置づけている。</p>	<p>p. 32 中段</p> <p>p. 45 中段</p>
122	<p>・ 理研の次世代スーパーコンピュータがすぐに産業化に資するというのは早急である、もう少し未来的なものであり、オープンソース化には不向きではないか。</p>	<p>・ 第3部第4章で、次世代スーパーコンピュータの利活用の支援機関などを設置することにより、「地域経済の活性化のため、次世代スーパーコンピュータを利活用し、これまで実現できなかったシミュレーションによる新製品の開発や研究開発コスト削減に取り組む事業者を支援すること」を位置づけている。</p>	<p>p. 47 中段</p>
123	<p>・ 農業分野では1980年代から農産物の遺伝子技術向上のために研究に取り組んできたが何十年もやっているが社会が受け入れないのでいまだにできない。デスバレーのギャップを埋めるには科学者だけでは難しく、農工、医工連携や社会学者などが協力しないと難しい。</p> <p>・ 魔の川、死の谷、その先にはダーウィンの海があり、産業政策上の考えが進めると、人間性が埋没してしまう。</p>	<p>・ 第2部の2第1章で、農水産業での産学連携、第2章で、ものづくり産業での産学連携を促進することを位置づけている。</p> <p>・ さらに第7部第1章で、「民・学・産と行政の各主体が多様な人材と交流する場を創出するほか、行政は様々な分野において情報提供などを行い、交流支援を行うこと」を位置づけている。</p>	<p>p. 30 下段</p> <p>p. 32 下段</p> <p>p. 79 下段</p>
124	<p>・ 次世代スーパーコンピュータに関して、地元中小企業がどう活用できるかが見えてこない。中小企業自らが活用するのは難しいのであれば応用を説明できる人材育成、テクノロジーをいかに産業に導いていけるか技術と経営の両方を理解しているMOT技術経営人材の育成にも力を入れてほしい。</p>	<p>・ 第3部第4章で、次世代スーパーコンピュータの利活用の支援機関などを設置することにより、「地域経済の活性化のため、次世代スーパーコンピュータを利活用し、これまで実現できなかったシミュレーションによる新製品の開発や研究開発コスト削減に取り組む事業者を支援すること」を位置づけている。</p> <p>・ 第2部の2第2章で、「技術と経営に長けた人材を育てるなど中小企業の企画力の向上をめざすこと」を位置づけている。</p>	<p>p. 47 中段</p> <p>p. 33 上段</p>

125	<p>・医療産業は国がすべきことだと思う。国費含め1300億円をつぎ込んできたが、今後も市費を入れ続けなければならないというのはどうか。</p> <p>一方で、中央市民病院は病床数減になり、救急者の受け入れ拒否も97件もあった。他国では（先端医療は）国を挙げて取り組んでいる。次期基本計画では立ち止まって検討すべき。</p>	<p>・第3部第4章で、「神戸医療産業都市構想の推進により先端医療技術の研究開発拠点を整備し、産学官の連携のもと成長産業である医療関連産業の集積を図り、雇用の確保と神戸経済の活性化、先端医療技術の提供による市内の医療水準の向上と国際社会への貢献をめざすこと」を位置づけている。</p> <p>・なお、投資額のうち、国負担額は976億円、市負担額は250億円、その他100億円となっている。</p> <p>・また、第2部第2章「三次救急を担う中央市民病院の救急医療・高度医療・急性期医療提供体制などの充実をめざす」旨を位置づけている。</p>	<p>p. 46 中段</p> <p>p. 26 下段</p>
126	<p>・医療産業都市構想は、産業の拠点でいくのか、或いは、家族が来た場合の滞在の場所やメンタルケアのほか、医療法務に強い弁護士などの社会的インフラを組み込み、市内外の患者が来て高度な医療を手軽に受診できるような体制づくりとするのかを、考える時期に来たのだと思う。</p>	<p>・第3部第4章で、「先端医療技術の研究開発拠点を整備し、産学官の連携のもと成長産業である医療関連産業の集積を図り、雇用の確保と神戸経済の活性化、先端医療技術の提供による市内の医療水準の向上」をめざすとしており、さらに「移植再生医療などを対象とした高度専門病院の整備と臨床医の集積により、市民をはじめ国内外の患者への高度な医療サービスを提供すること」を位置づけている。</p>	<p>p. 46 中段</p> <p>p. 46 下段</p>
127	<p>・理化学研究所は国事業であり市民理解をどのように得るかが重要である。国事業を自治体事業と一緒にすることであり、市民や患者の団体とも一緒に取り組んでいる。</p>	<p>・第3部第4章で、「先端医療技術の研究開発拠点を整備するなど、医療産業都市構想を推進する」旨を位置づけている。また、国市民認知の向上のため、「先端医療研究に関する分かりやすい情報提供」を位置づけている。</p>	<p>p. 46 下段</p>
128	<p>・市民への医療提供と国際的な医療ビジネス拠点としての役割の両方があり、世界でも多くない地域経済のモデル都市を目指して、展開を期待したい。</p>	<p>・第3部第4章で、「神戸医療産業都市構想の推進により先端医療技術の研究開発拠点を整備し、産学官の連携のもと成長産業である医療関連産業の集積を図り、雇用の確保と神戸経済の活性化、先端医療技術の提供による市内の医療水準の向上と国際社会への貢献をめざす」旨を位置づけている。</p> <p>・さらに、「関西全体の研究ネットワークを強化し海外のバイオメディカルクラスターと連携した、世界的なバイオメディカルクラスターとして、「知の集積」の形成をめざす」旨を位置づけている。</p>	<p>p. 46 中段</p> <p>p. 46 中段</p>
129	<p>・信頼を失った社会、神戸市がどう改善するか、すべてをあらわにする必要がある。小学校6年生が社会で活躍する場面を想定してどう提案をしていくかである。現況データだけではなくこうありたいという仮説データも議論には必要である。神戸市がリーダーシップをとってきたように行政のリーダーシップが求められているのでこの会で提案していきたい。</p>	<p>・第6部第1章で、「協働と参画をさらに進める」ための市の役割として、「市政の透明化と各主体の相互理解をさらに進め、信頼ときずなの醸成に努めること」や、「市民や事業者などの力が最大限発揮されるよう各主体の総合調整を図る役割を果たしていくこと」を位置づけている。</p>	<p>p. 68 中段</p>
130	<p>・デザインを科学の連携や横のつながり合わされることも課題である。対象と目的とプログラムをださないと思いつきで終わってしまう。「アジア」も対象を具体化すべき。デザインでも形や表象的なものでなく大学連携により生活スタイルをいかに豊かにするかを検討すべきである。</p>	<p>・第1章デザインを活かした神戸づくりで、「まちのデザイン」「くらしのデザイン」「ものづくりのデザイン」は、お互いに関係し重層的に関連している」旨を位置づけている。</p> <p>・例えば、「ともに進める取り組み」としての産業に関するデザインでは「付加価値を生み出す」ため、「大学等との研究機関との共同によるプロダクトデザイン」「異業種交流」「場づくり」「国内外での販路拡大」「デザインに共感・共鳴できる市民の風土づくりや人材育成と交流」を位置づけている。</p>	<p>p. 18 中段</p> <p>p. 33 上段</p>
131	<p>・計画は期待と成果が1対1に対応しない、分からないものも多く調整することも大変な作業であるが、多様なものの整理をしていくことが必要。情報の有無で解決できないものもあり、事務局でうまくまとめていただきたい。</p>	<p>・「神戸づくりの指針の構成」においては、今後予想される社会潮流を踏まえ、「市民のくらしの安定化を図るための早急な取り組み」の観点から第2部を、「次世代に向けた将来への取り組み」の観点から第3部を、「安全で環境に配慮したまちづくりへの取り組み」とし</p>	<p>p. 19～21</p>

		<p>て第4部の大ききは3つの観点を位置づけている。</p> <ul style="list-style-type: none">・また、さまざまな取り組みを支える「まち」・「しくみ」として、「神戸を支えるまちを形成する」として第5部、「神戸づくりにともに取り組む」として第6部を位置づけている。・さらに、「世界の中での神戸を確立する」として第7部に新たな都市戦略を、そして、「むすび」において、「ひとが集い・交わり・活きる『協創』のまちへ」を位置づけている。	
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--